

令和七年度 B日程(二月二十五日) 入学試験問題

国語

(注意事項)

1. 解答は、すべて別紙の解答用紙に記入してください。
2. 試験開始後、解答用紙の所定欄に氏名と受験番号を記入してください。
3. 筆記用具は、HBの濃さの鉛筆、またはシャープペンシルを使用してください。
ボールペンやサインペン、色の薄い鉛筆は使わないでください。

一 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

わたしの息子が英国のブライトン&ホーヴ市にある公立中学校に通い始めた頃のことだ。

英国の中学校には「シテイズンシップ教育」というカリキュラムがある。息子の学校では「ライフ・スキルズ」という授業の中にそれが組み込まれていて、議会政治についての基本的なことや自由の概念、法の本質、司法制度、市民活動などを学ぶのだが、その科目のテストで、「エンパシーとは何か」という問題が出たという。

息子は「自分で誰かの靴を履いてみる」と答えたらしい。「To put yourself in someone's shoes^A（誰かの靴を履いてみること）」は英語の定型表現である。もしかしたら、息子が思いついたわけではなく、先生が授業中にエンパシーという言葉の説明するのにこの表現を使ったのかもしれない。

「エンパシー」という言葉を聞いて、わたしが思い出したのは「シンパシー」だった。正確には、「エンパシーとシンパシーの違い」である。

わたしのようになりしてから英国で語学学校に通って英語検定試験を受けた人はよく知っているとと思うが、「エンパシーとシンパシーの意味の違い」は授業で必ず教えられることの一つだ。エンパシーとシンパシーは言葉の響き自体が似ているし、英国人でも意味の違いをきちんと説明できる人は少ない（というか、みんな微妙に違うことを言ったりする）。あ、英語検定試験ではない

い、わたしが語学学校に通ったのはもう二十数年前のことなので、すっかり忘れてしまった二つの言葉の意味の違いをもう一度、英英辞書で確認してみることにした。

エンパシー (empathy)

他者の感情や経験などを理解する能力

シンパシー (sympathy)

1. 誰かをかわいそうだと思う感情、誰かの問題を理解して気にかけていることを示すこと

2. ある考え、理念、組織などへの支持や同意を示す行為

3. 同じような意見や関心を持っている人々の間の友情や理解

(『オックスフォード・ラーナーズ・ディクシオナリーズ』のサイト oxfordlearnersdictionaries.com より)

英文は、日本語に訳したときに文法的な語順が反対になるので、エンパシーの意味の記述を英文で読んだときには、最初に来る言葉は「the ability (能力)」だ。

他方、シンパシーの意味のほうでは「the feeling (感情)」「showing (示すこと)」「the act (行為)」「friendship (友情)」「understanding (理解)」といった名詞が英文の最初に来る。

つまり、エンパシーのほうは能力だから身につけるものであり、シンパシーは感情とか行為とか友情とか理解とか、どちらかといえば人から出て来るもの、または内側から湧いてくるものということになる。

さらにエンパシーとシンパシーの対象の定義を見ても両者の違いは明らかだ。エンパシーのほうには「他者」にかかる言葉、つまり制限や条件がない。しかし、シンパシーのほうは、かわいそうな人だったり、問題を抱える人だったり、考えや理念に支持や同意を示せる人とか、同じような意見や関心を持っている人とかいう制約がついている。つまり、シンパシーはかわいそうだと思う相手や共鳴する相手に対する心の動きや理解やそれに基づく行動であり、エンパシーは別にかわいそうだとも思わない相手や必ずしも同じ意見や考えを持っていない相手に対して、その人の立場だったら自分はどうだろうと想像してみる知的作業と言える。

息子は学校で、「テロやEU離脱や広がる格差で人々の分断が進んでいるいま、エンパシーがとても大切です。世界に必要なのはエンパシーなのです」と教わったそう。

と、ここまでは『ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー』という本に書いた話である。

この本を出版したとき、意外な反応があったことは前にも書いた。^B本を読んだ人たちの多くが「エンパシー」という言葉について語り始めたのである。

正直、これには驚いた。英国や米国など、英語が公用語の国では、「エンパシー」はもう何年も前からクローズアップされてきた言葉だし、例えばオバマ前大統領などが好んでこの言葉を使っていたので様々なメディアにばらまかれ、もう「聞き飽きた」という

人々もいるほど裾野まで浸透している（だからこそ学校でも教えているわけだし）。

そこで考えたのは、ひょっとして日本では「共感」という言葉は広く流通していても、その元ネタである「エンパシー」という英単語はあまり知られていないのではないかとということだ。で、実はここでもたいへん^aヤツカイな問題があり、エンパシーは「共感」という日本語に訳されるが、シンパシーも「共感」と訳すことができるのだ。シンパシーのほうには「同情」や「思いやり」、「支持」といった訳語もあり、エンパシーは「感情移入」、「自己移入」と訳されることもある。

いずれにしろ、日本語になると「エンパシー」も「シンパシー」も同じように感情的・情緒的というか、単なる「お気持ち」の問題であるような印象を与えてしまう。つまり、「身につける能力」というより、「内側から湧いてくるもの」のように聞こえるのだ。

これだと、エンパシーという言葉の訳は、英英辞書とはずいぶんかけ離れたものになる。特にエンパシーの訳語に「ability（能力）」という言葉がまったく反映されていないのは奇妙だ（と同時に、なぜ日本でそうになっているのかは面白い点である）。

正しい言葉の意味を知る上でも、エンパシーについて書かれた本の邦訳を読んで理解する上でも、エンパシーという単語の日本語の定訳をいつまでも「共感」という表現にしておくのは問題なのではないか。近年、日本語のSNSなどで見かける「共感危険」^c「共感にはもううんざり」といった論調にしても、エンパシーもシンパシーも「共感」という日本語に訳されている限り、それはいったいどっちのことを言っているのかわからない。

とは言え、本当のところ、エンパシーの意味が曖昧^{あいまい}になっているのは日本だけではない。実は英語圏の国々でも、エンパシーの定義は論者によって様々に異なり、論者の数だけ定義があるなどと言われたりもする。

それでも、エンパシーにはいくつかの種類があるということは定説になっていて、大まかに言うとな次のようなものだ。

① コグニティヴ・エンパシー

日本語では「認知的」エンパシーと訳されている。米マサチューセッツ州にあるレスリー大学の公式サイトに掲載されている「The Psychology of Emotional and Cognitive Empathy」という記事には、コグニティヴ・エンパシーは「どちらかといえばスキルのようなもの」と書かれている。さらに、心理学ではこのタイプのエンパシーは「empathic accuracy（エンパシー的な正確さ）」とも表現されると指摘した上で、「その人物がどう感じているかを含む他者の考えについて、より全面的で正確な知識を持つこと」という『Encyclopedia of Social Psychology』からのサラ・D・ホッジズとマイケル・W・マイヤーズの言葉を引いている。これは

オックスフォード・ラーナーズ・ディクシオナリーシリーズが定義する意味と**フゴウ**する。息子風にいえば「他人の靴を履いて」他者の考えや感情を想像する力であり、その能力をはかる基準は想像の正確さだと心理学の分野では定義されている。

② エモーショナル・エンパシー

「感情的」エンパシーと訳される言葉だ。前述のサラ・D・ホッジズとマイケル・W・マイヤーズによれば、これまたいくつかに分類されるという。まず一つ目は、「他者と同じ感情を感じること」。これは、**「共感」**だろう。そして二つ目は、「他者の苦境へのリアクションとして個人が感じる苦悩」、三つ目は「他者に対する慈悲の感情」となっている。これは、オックスフォード・ラーナーズ・ディクシオナリーズでいうところの「**X**」の意味とかなり被る。

③ ソマティック・エンパシー

これは、②のエモーショナル・エンパシーで定義された二つ目の「他者の苦境へのリアクションとして個人が感じる苦悩」をさらに推し進めたもので、他者の痛みや苦しみを想像することによって自分もフィジカルにそれを感じてしまうというものだ。例えば、誰かが脚をひどく怪我したのを見て、**「Y**」も痛くなるというような反応である。

④ コンパッション・エンパシー

これは最近よく使われている言葉であり、他者が考えていることを想像・理解することや、他者の感情を自分も感じるといったエンパシーで完結せず、それが何らかのアクション（行為・行動）を引き起こすものだという。「compassion」もシンパシーやエンパシーと似た言葉として使われることが多いが、オックスフォード・ラーナーズ・ディクシオナリーズには「苦しんでいる人々や動物に対する、強いシンパシーの情であり、彼らを助けたいと思う願望」と定義されている。

ちなみに、②のエモーショナル・エンパシーはアフェクティヴ（情緒的）・エンパシーと呼ばれることもあり、④のコンパッション・エンパシーは「empathetic concern（エンパシー的配慮）」と呼ばれることもある。このようにエンパシーの定義は様々であり、読めば読むほど「これとこれは同じだからアえて違う言葉で括る必要ないんじゃないか」とか「これはエンパシーじゃなくて

シンパシーのほうだろう」とかいう疑問が湧いてくる。ある意味、トナえたもん勝ちというか、^dアナキーな言葉の定義状況とも言えるが、それもそのはずで、実はエンパシーという言葉の歴史はたいへん浅いらしい。

米誌アトランティック電子版掲載の「A Short History of Empathy」(2015年10月15日)という記事の執筆者、スーザン・ランゾーニは、エンパシーという英語の言葉が登場したのはわずか1世紀前のことだと書いている。エンパシーは「Einfühlung」というドイツ語の訳語として編み出された言葉だったという。これを英語に直訳すれば「feeling in」となるらしい。日本語なら「感情移入」、または「感じ入る」にでもなるだろうか。『世界大百科事典』(平凡社)では、「Einfühlung」の訳語である「感情移入」を「他人や芸術作品や自然と向かいあうとき、これら対象に自分自身の感情を投射し、しかも、この感情を対象に属するものとして体験する作用をいう」と定義している。

英語圏の心理学者たちは、当初、「Einfühlung」の英訳として「animation (活き活きと描き出すこと)」「play (のふりをする、振る舞う)」「aesthetic sympathy (美学的シンパシー)」「semblance (うわべ、見せかけ、類似)」といった言葉を使おうとしていたらしい。^u「う」、1908年に二人の心理学者が、「in」をギリシャ語の「em」に置き換え、「feeling」の代わりに「pathos」を使って新語を作ろうじゃないかと提案し、「empathy」という言葉が誕生した。

『世界大百科事典』による「感情移入」(Einfühlung)の解説と同じように、1900年代の時点では、英語のエンパシーも「他者の気持ちおもんばかを慮る」という意味ではなかったらしい。それどころか真逆の意味で使われていて、自分の感情や気持ちを、自分の外側にあるものに投影することだった。ある物体に命を吹き込むこと、または世界に自分の想像や感情を投影させることを意味していたというのだ。^e「え」、果物の静物画に「おいしそう」「よく冷えた」などの自分の想像力から湧き上がる感情を投射させて活き活きとした作品として鑑賞したりすることである。

それが20世紀半ばになり、エンパシーという言葉の意味がいきなりシフトすることになる。1948年に米国の臨床心理学者ロザリンド・カートライトは、彼女の師であったレナード・コットレルと共に対人関係におけるエンパシーの調査を行った。そのプロセスの中で、彼女は対象への「想像の投射」という初期のエンパシーの意味を否定し、人間同士の関係性こそがエンパシーの概念の中心にあるべきだと主張した。

その後も心理学の分野では実験的な研究が続けられ、やがて心理学者たちは「本物」のエンパシー(他者の考えや感情の正確な査定)と、「投射」とを区別して考えるようになった。1955年のリーダーズ・ダイジェスト誌では、エンパシーを「自分自身が感

情的に巻き込まれて判断力に影響をおよぼすことなく、他者の感情を理解する能力」と定義していた。これは、現在のオックスフォード・ラーナーズ・デイクシオナリーの定義や、「コグニティブ・エンパシー」の定義と重なる。

(ブレイディみかこ『他者の靴を履く』文藝春秋による)

※問題作成上の都合により、文章の一部に手を加えてあります。

問一 傍線部A「誰かの靴を履いてみる」とは、どのようなことを表す比喻か。三十字以内(句読点を含む)で具体的に説明しなさい。

問二 傍線部B「本を読んだ人たちの多くが「エンパシー」という言葉について語り始めた」ことについて、筆者はその理由をどのように考えているか。解答欄の「から」につながる形で、六十字以内(句読点を含む)で説明しなさい。

問三 傍線部C「エンパシーもシンパシーも「共感」という日本語に訳されている限り、それはいったいどっちのことを言っているのかわからない」ことについて、日本語では、なぜそのような問題が生じているのか。解答欄の「から」につながる形で、三十字以内(句読点を含む)で具体的に説明しなさい。

問四 空欄 X に入る表現を五字で本文中から抜き出しなさい。

問五 空欄 Y に入る表現を解答欄に合わせて書きなさい。

問六 傍線部D「アナーキーな言葉の定義状況」とは、どのような状況を指すか。解答欄の「であること」につながる形で、十五字以内(句読点を含む)で説明しなさい。

問七 空欄 あ え に入る語として最も適切なものを、それぞれ1～4の中から一つずつ選び、番号で答えなさい

(同じものは二度入らない)。

- 1 しかし
- 2 例えば
- 3 とはいえ
- 4 だから

問八 二重傍線部 a～d のカタカナ部分を漢字に改めなさい。

a ヤツカイ

b フゴウ

c アえて

d トナえた

二 次の対話を読み、後の問いに答えなさい。

養老^(注1)

…(略)…木を植えるのは、時間の単位が何十年、何百年の話ですから、物事を長い目で見ることにつながります。明治神宮の森だって、林学者や造園家たちが「一〇〇年を経て自然の林相になる」^(注2)ことを目指してつくったジンコウ^aの森で、今、あれだけ素晴らしい森が東京の真ん中にある、すごいことですよ。

春山^(注3)

…(略)…奈良県の吉野は桜の名所として知られ、山桜をはじめ約三万本もの桜が植わっています。その経緯を調べてみたところ、平安時代初期、修験道^{しゅげんどう}の開祖と言われる役小角^{えの おづめ}が吉野の山上ヶ岳で蔵王権現^{ざわうこんげん}を感得し、その姿を山桜に刻んで祀^{まつ}ったことにはじまると言われています。京の内裏にも吉野の桜の木が植えられて「左近の桜」と呼ばれるなど、吉野と桜は切っても切れない関係にありました。誰かが考えたのか、自ずとそうなったのかはわかりませんが、いつしか、吉野詣^{よしの 参り}のときには桜を植樹するという習慣が生まれ、山のふもとでは村のこどもたちが桜の苗木を売っていたそうです。室町時代にはある商人が吉野詣で一万本もの桜を植樹したという話も伝わっています。

山にお参りに行くことと山に木を植えることをつなげ、祈りの行為として昇華している吉野詣の仕組みは、大きな示唆を与えてくれます。吉野詣を参考にしながら、山に行く人が増えることで山がより豊かになる仕組みを、現代にどうよみがえらせることができるか。考えつつ、実践を積み重ねています。…(略)…

今、気候危機の問題が叫ばれ、CO₂^Aの排出抑制について議論されていますが、そのためには、化石燃料をなるべく使わないだけでなく、CO₂を吸収する森を積極的につくっていくことも大事なことだと思います。

養老

日本人は昔から木を植えるということをしてきました。人類は古代文明の時代から、周囲の森林を伐採して都市をつくるという歴史を繰り返してきました。日本でも、奈良時代や平安時代は新たな都をつくり、寺社仏閣を建立^bするために、たくさんの木を伐^きってきたはずですよ。その一方で、平安時代に京都のお坊さんが木を植えたという記録も残っており、空海が開いた高野山でもおそらく植林がされていたと思われます。近代以降のヨーロッパを除いて、こういう習慣を続けていた国は世界でも日本だけでしょう。

江戸時代になると、幕府は「これ以上、木を伐つてはいけない」という御留林^{おとめりん}を定め、森林資源を保護しましたし、そのおかげで広葉樹の原生林が残っている場所が、ここ箱根の近くにもあります。また、お上^Bに言われなくても地域の住民たちが自主的

に守った森もたくさんありました。さつきおっしゃったように、木を伐り過ぎると、土砂崩れが起こったり、洪水になったりして大変な目に遭うわけですから、生活のために木を伐ることは必要だけれども、限度を超えてはいけないということを、昔の人はよくわかっていたのだと思います。

春山 そこが、西洋と日本の自然観の大きな違いかもしれません。

養老 ^C日本人の自然観は、自然と対峙^{たいじ}する西洋のそれとは明らかに異なるもので、西洋の「nature」は原生林のような手付かずの自然のイメージです。しかし、日本語の「自然」は、里山のような、人の手がある程度入った自然なんです。その程度がどれくらいかは人によってグラデーションがあるでしょうが、たとえば田んぼや畑も多くの日本人は「自然」と捉えていると思います。こういう自然観は、日本人が世界を感覚的に捉える見方とも深く結びついてはらずで、西洋人の概念的な世界の捉え方とタイ^Cショウ的です。

^Dただ、そういう自然への手入れが今はできなくなっていますね。戦後、日本は復興のために大量の木を伐り、その後に、スギやヒノキなど建材用のジンコウ林をたくさん造営しました。本当はこのスギやヒノキを間伐して、山の手入れをしなければいけなかったのですが、エネルギーを石油に頼れるようになり、また、輸入建材の方が安いというので放置され、山はすっかり荒れてしまいました。日本は国土の七割以上が森林という国ですが、そのほとんどがこうした荒れた山です。林業など山で仕事をする人たちは危機的な状況にあると言えます。

春山 吉野詣の植樹は、人の手が入ることで山がより豊かになっていく、一つの仕組みではないかと思っています。たとえ小さくても、そうした仕組みを各地で再興していく必要があると考えています。

養老 人が入ることにより山が豊かになるというのは、まさに里山のことですね。世界中を見ても、日本の里山のように隅々まで自然を利用しているところは少ないと思います。

虫が捕れるかどうかは、その地域の環境と深く関係していますが、人が多少手を入れた山の方が、実は虫が多い。生態学者の中には、完全な原生環境の方が虫が多いという意見があるんですが、我々「虫屋」の経験からいうと、里山のように、ある程度、人が手を入れているところの方が虫は捕りやすいんです。

だいたい、完全な原生林なんて、アマゾンのような、ほとんど人の行かないところにヘリコプターで飛んでいって降りるというところでもない限り、行くことはできないわけです。だから、どっちが多いかなんて議論しても意味がないし、実際問題、ア

マゾンのジャングルでは生きるものはみんな日の当たる木の上について、まっくらな地面に虫はいないですよ。

たぶん、昆虫などの生物にとっては、手付かずの自然とジンコウ的な世界の中間ぐらいが、意外に住みやすかったりするんじゃないですか。今は、そういうふうには、生物にとって住みやすい範囲が、人間の住む場所の近くまで広がってきています。箱根のあたりもかなり鹿が増えていて、場所によっては鹿に会わない日はないというぐらいになっています。

春山 人間の営みを含めての自然です。「狩」という字は、獣を守ると書いて「狩」です。狩猟など人の手が適度に入るからこそ守られる環境や自然があります。手を入れ過ぎるのはよくないとしても、バランスをとりながら、適度に人が山に入ることが必要です。

養老 でも、そのバ^Eランスをとるのはなかなか難しいですね。特に日本の自然は非常に多様で複雑ですからね。以前、高知県の大川村に行ったとき、地元の人が山に生えている木の苗を持ってきて見せてくれました。それがなんと三一種類もあったんです。そういう豊かな多様性が、その土地その土地で微^d細に異なっているのが日本の風土で、たとえば箱根から山梨県の道志村まで車で行くと、それほど長い距離ではないのに、いくつも峠があつて、峠を越える度に気候が変わります。それだけ土地によって細かく環境が変わってくるということです。

そんな地勢の国土で里山をどう回復するか、その加減は、やはりそこに長く暮らしていないとわかりません。里山を全国一律のやり方で維持しようとする、竹やぶばかり増えてしまったりする。よそでうまくいったことが、別のところでも通用するとは限りません。

そう言えば最近、箱根でも九州でしか捕れなかった虫がたくさん見つかるようになったんです。不思議に思って調べてみると、箱根で造園をしたある業者が、九州から運んできた苗木を使ったことがわかりました。おそらく、そこから虫が一気に増殖したのでしょう。それがこの先、どういう影響を箱根の生態系に及ぼすかはわかりませんが、こういうことが日本各地で起こっていきますね。

『土を育てる 自然をよみがえらせる土壤革命』(NHK出版)という本があります。著者のゲイブ・ブラウンさんはアメリカ人で、もともと、都会育ちの若者でしたが、農家の娘と結婚した後、義父母から農地を受け継いで、やがてノースダコタ州に二〇〇〇ヘクタールという広大な農場と牧場を所有することになります。最初は化学肥料や農薬を使用していたようですが、一九九〇年代から完全有機栽培に切り替え、土をまったく耕さない不耕起栽培を行っています。種を蒔くときも、土に小さな切り込

みを入れるだけだそうです。この本に載っている写真を見ると、ジャガイモを育てるときは、ただ種芋を畑に並べていって、上に干し草をかぶせるだけ、それなのに、収穫のときに干し草をどけると、ちゃんとジャガイモが育っている。「なんだ、これでもいいのか」という感じでしよう。

ブラウンさんは福岡正信さんの「自然農法」^(注4)にも影響を受けたそうですが、僕も日本で不耕起栽培をやっている人の話を聞いたことがあります。ただ、日本の場合はもっとストイックで、なんというか一種の宗教のように、信念でやっている印象を受けました。ところが、この著者がすごいのは、周辺の農家と競争できるだけの収穫を上げて、経済的にもやっていけるということを証明しているんです。これも一つのアメリカン・ドリームと言えるでしょう。

春山 土を耕さず、農薬や肥料を使わず、地球の生態系の働きに任せるリジェネラティブ農業（環境再生型農業）は、ネットフリックスのドキュメンタリー「キス・ザ・グラウンド 大地が救う地球の未来」などでも紹介され、注目を集めていますね。

養老 本来、自然はそういうもので、下手にいじらない方がいいんです。「土地が広いアメリカだからできるんだ」と反論する人もいるかもしれませんが、この本の「日本版に寄せて」を読むと、日本でもうまくいくことが説得力のある文章で書かれています。でもよく考えてみると、耕さなくても作物をちゃんと収穫できるというのは不思議なことです。人類が農耕をはじめてから約一万年の歴史があるわけですが、そんなに長い間、額に汗して地面を耕してきたのは、いったいなんだっただろうという疑問が起きます。ホワイトカラーの仕事の大半は、やらなくてもいい「ブルシット・ジョブ」^(注5)などと言われていますが、都会の人の仕事も、土を耕すのに近いことなんじゃないかという気がします。教育でも盛んに「一生懸命勉強しなさい」と言っているけれども、土を耕さなくてもちゃんと作物は育つということに倣^{なら}えば、実はあんまり一生懸命やらなくてもなんとかなるんですよ。

春山 今のお話で、世界で最初に完全無農薬・無肥料でのリンゴ栽培に成功した、「奇跡のリンゴ」の木村秋則さんを思い出しました。

養老 そうそう、木村さん。彼の結論も、自然の力を活かして、あとは放つといていいということだったけれど、それを気に入らない人が多い。

春山 農薬や肥料を使って一生懸命に農業をしている人にとっては、そういうことが受け入れにくいのかもしれません。

養老 一生懸命努力したことを評価したいのでしょう。特に日本ではそうした傾向が強い。「俺が苦労してやったからできた」と言いたいんです。だから、耕しもしないで勝手に育って収穫できるというのは、日本だと嫌がられる。もうちょっと自然に対して、

頭を柔らかくした方がいいですね。

不耕起栽培が教えてくれるのは、「土を耕す」という、人類が一万年やり続けてきたことでも、それと一八〇度違う発想をしてもいい、ということです。一生懸命頑張れば何でもできるというのは、^Fあらゆることに「予測と制御」が可能だという都会人の考え方で、自然も人生も、そんなに思い通りになるものではありません。

特に日本のように何でも頑張るのが好きな国では、「もしかして働かなくても大丈夫なんじゃないか」そんなに頑張つて勉強しなくてもいいんじゃないか」という疑問をもつと持った方がいいし、むしろ怠けた方がいいじゃないですか。たとえば、東京で三〇度超えたら仕事は全部休みということにすれば、猛暑の中で無理して働かなくてもいいし、あれだけたくさんあるオフィスビルで使っているクーラーも止められます。みんなが休むことでどれくらい石油の消費量が減ったか、省エネのコストを計算してみたらいいと思いますよ。その結果を国連に持つていけば、「我が国は脱炭素に成功している」と胸を張れる。

春山 それはおもしろいですね。確かに発想の転換が必要で、農業のやり方を含め、自然と人との関わり方で、わかっていないこと、試していないことがまだまだたくさんある。いろいろな方法を試してみるのがいいかもしれません。

養老 とはいえ、農業では通常、一年に一回しか収穫ができませんから、それに失敗すると一年分がパーになってしまいます。この本の著者のブラウンさんも、不耕起栽培をはじめた頃、四年連続して、^{ひょうがい}電害や大雪などで大損害を受けています。その結果、彼は耕作地の生態系がよみがえっていることに気づき、「土の健康の五原則」、つまり「土をかき乱さない」「土を覆う」「多様性を高める」「土の中に『生きた根』を保つ」「動物を組み込む」ことを学びます。今は六つ目として、農場がどういう気候風土にあるのかという「背景の法則」が加わったようですね。：（略）：

（春山慶彦「養老孟司との対話 自然の中で身体を動かすだけで無意識に学んでいる」による）

(注1) 養老孟司(ようろう たけし、1937年-)は神奈川県出身の解剖学者。東京大学名誉教授。日本の森林を時代に生かすための政策提言などを行うNPO法人「日本に健全な森をつくり直す委員会」の委員長。

(注2) 木の種類や植え方によって生じる森の姿のこと。

(注3) 春山慶彦(はるやま よしひこ、1980年-)は福岡県出身の起業家。登山者用地図アプリを提供するYAMAPを創業。

(注4) 福岡正信(ふくおか まさのぶ、1913年-2008年)は愛媛県出身の農学者。自然農法を提唱した。

(注5) Bullshit Jobs ブルシットは、「馬鹿馬鹿しい」「無意味な」「誇大で嘘な」の俗語。ばかばかしい、無意味な仕事のこと。

※問題作成上の都合により、文章の一部に手を加えてあります。

問一 傍線部A「CO₂」とは何か。その意味内容を五字以内で説明しなさい。

問二 傍線部B「お上」とは何か。その意味内容として最もふさわしい言葉を、本文中から二字で抜き出しなさい。

問三 傍線部C「日本人の自然観」とは何か。解答欄の「見方・考え方」に続く形で、その意味内容を二十字(句読点を含む)以内で説明しなさい。

問四 傍線部D「自然への手入れが今はできなくなっています」とあるが、それはなぜか。解答欄の「から」に続く形で、その理由を本文の内容に即し四十字(句読点を含む)以内で説明しなさい。

問五 傍線部E「バランスをとるのはなかなか難しい」とあるが、それはなぜか。その理由に相当する部分を本文中から十一字(句読点を含む)で抜き出しなさい。

問六 傍線部F「あらゆることに「予測と制御」が可能だという都会人の考え方」が反映していると思われる事象は次のうちどれか。

最もふさわしいものを次のア～オから選びなさい。

- ア 一生懸命努力したことを評価したいこと
- イ 気温が三〇度を超えたら仕事を休むこと
- ウ 自然災害で大損害を受けること
- エ 耕さなくても作物をちゃんと収穫できること
- オ 箱根でも九州でしか捕れなかった虫が見つかること

問七 二重傍線部a～dのカタカナを漢字に、漢字をカタカナに改めなさい。

- a ジンコウ
- b 建立
- c タイシヨウ
- d 微細